平成25年度第3回外部評価専門部会　会議録

日　時　　平成25年11月13日（水）13：00～14：35

場　所　　市役所本館議会会議室

議　題　　⑴部会選定事業の最終評価について
　　①担い手の育成・確保
　　②新規高卒者の早期求人要請

出席者　　髙井伸二部会長、小林博子委員、三國節夫委員、
　　升澤博也委員、國分隆子委員
　　（欠席委員　立崎享一委員）

事務局　　田上課長、沖澤課長補佐、工藤課長補佐、成田主任主査、鳥谷主任主査

会議内容
⑴部会選定事業の最終評価について
　①「担い手の育成・確保」について、下記のとおり最終評価が行われた。

質疑委員	質疑と応答
髙井部会長	○妥当性については委員の皆様もそうであるように問題はない。有効性という観点では、やはり数値データが必要である。効率性についても、インプットとアウトプットの関係がわかるような数値データがほしい。公平性の面では、どこの層まで目配りするかが問われる。
升澤委員	○農協と市役所で組んで農業再生協議会をやっている。その中でいわゆる嫁探しもやっているが、女性が集まらない状態。最終的には収入が大事、農業には女性が嫁げるような職業になってほしい。
髙井部会長	○結婚する・しないの年収の境目は300万円と聞く。例えば、年収300万円を目指すには、どんな規模でどんなバランスの作付でやれば達成できるのか、「生計を立てられるようなモデル」を作って若者に見せてほしい。また、給付金をあげると同時に、勉強する機会・ステップアップの機会を与えること。加えて、農業機械を個々人が買うのではなく、みんなで使える環境も大事。年収500万円とかになれば、間違いなくお嫁さんは来る。
升澤委員	○十和田市内の農家では、最高で 8000 万円とっている人がいる。確

	か、7~8 人使ってやっている。そこは、経理等の事務仕事を農協にやってもらっている。
髙井部会長	○農業は、やはりビジネスである。人の配置や役割、かける経費などに戦略性を持ってもらいたい。経営の検証を農家ごとにやってみるとか、市も踏み込んでみては。 ○今は、若者が参入するには、技術面や収入の見通しなどいろんな面で情報不足であろう。
小林副部会長	○農業は自然相手であり、机上の理論ではない。後継者がいないと、ここを伝えていけなくなる。三農の生徒さんたちに農業の世界を伝えていく機会を設けてはどうか。
國分委員	○三農生たちの農家への宿泊体験などしてみては。どうやって農作物ができるのかを、頭でなく体で学んでいくというのはどうか。
髙井部会長	○今の子たちは、「3K」に敏感で、いわゆるキレイな仕事をしたがる。いろいろなプラスの切り口を見せて、「農業はカッコいい」のイメージを作っていければいい。
升澤委員	○若者たちも、芽が出て成長して収穫して、と作物を作っていけば面白くなってくるはず。農協にも、若者による研修を受け入れられる部分はある。
國分委員	○三農生が作ったトマトがおいしい。でも夏休みは店頭に並ばない。夏休み中は収穫していないようで、もったいない。
小林副部会長	○そういう学生たちに、お小遣いというか、作物で収入を得られる体験をさせるとよい。
髙井部会長	○この事業に対する策として、「魅力ある農家」の情報発信、生計を立てられるモデルケースづくり、あとは給付金対象者のフォローアップが必要。あるいは思い切って、休耕田を使って、市が音頭を取って三セク的に農業経営をやってみるとか。
升澤委員	○十和田市は、いい作物を作れる地域。休耕田があるのはもったいない。
國分委員	○私は畑を所有しているが、現在は放置している状態。とはいえ、特に調査も来ない。そういう土地の情報をちゃんとつかめば、よりハッキリと使える土地の面積がわかる。
髙井部会長	○升澤委員のお話にあった、現実の成功事例などを周知してＰＲしてはどうか。私は獣医だが、人が集まってもやり方の工夫の余地は小さい。しかし農業には、人の配置ややり方次第で、掛け算で収入を伸ばせる可能性がある。

【評価結果】

〇事務事業の方向性

現状のまま継続　１人

有効性を改善して継続　４人

〇各委員のコメント（外部評価表より）

・「人・農地プラン」を検証、実行する。就農青年、予定者の確保や、生活、経済面で安心プランになれる方向性を提示する。カッコいい農業と、収入増の将来像の確証を提示する。

・行政が指導してくださって、若い方々に参加していただく事業をしていただきたいと思います。

・十和田市が良い作物が作れることも宣伝し、他県にも呼び掛ける。

・国の事業のほかに、営農のさらなるＰＲをお願いする。

・農業の魅力（収益性・生産性）のＰＲと、事業対象者のフォローをしっかり行い、後継者育成に努める。

＊当日欠席者（立崎委員）の評価結果（11/15 総務課受領）

〇現状のまま継続

国の農業政策の一環であり、県・市と一連の施策の中で行われている事業でもあり、さらに積極的に推進していただきたい。

②「新規高卒者の早期求人要請」について、下記のとおり最終評価が行われた。

質疑委員	質疑と応答
髙井部会長	〇就職してからのミスマッチによる早期離職を防ぐには、という論点でご意見を伺いたい。 〇人間には、テスト＆エラーというか、やってみて、やり直して、の繰り返しという面もある。ある程度の離職率は仕方ない、ととらえるかどうかだが。
三國委員	〇業種によっては、インターンシップに向いていないものもあるが、その場合は職場見学をやってほしい。市から、学生たちの受入れについて、企業へお願いをするべきだ。 〇学生たちには「せっかく正社員で就職できたのに、離職してハローワークに行くと次は非正規になってしまうので、最初の職場が一番いいですよ」と話しているが、なかなか理解してもらえない。
國分委員	〇学生たちも、一つの企業のみの見学では足りない。何社でも見る、見せる、が必要。仕事に興味を持たせるような見せ方も大事。
髙井部会長	〇インターンシップや職場体験は、中学生とか早い時期のうちにやる

	ことが重要である。中学生の時にすでに、普通高校か実業高校かの選択が起きるので。
小林副部会長	○ミスマッチの背景を知ることが大切だと思う。離職者から聴取りを行うとか、場合によってはカウンセラーとか。また、職業訓練校の活用が求められる。
髙井部会長	○早期離職は、今の豊かな日本がそうさせている部分もある。無職でも、親元で飯は食える。これは、市でどうこうというよりも、社会構造上の問題であろう。 ○仕事をやめた人の話を聞いて、その情報を蓄積する機会があってもいいのかなと。また、やめた後はどんな展開が待っているか（非正規・健康保険）を正しく伝えてあげることが必要である。
三國委員	○市は、管内企業が求人票をどれだけ出しているか、いつ頃出しているかの情報を、収集・整理してほしい。 ○管内企業の試験日も、採用試験解禁日に合わせて実施することで、優秀な生徒さんが管外・県外に流出する可能性を減らせる。
國分委員	○よりよい人材を十和田においておくという視点から、求人票をより早く出し、より多く地元に残ってもらうようにすればいい。学生と企業の相乗効果を狙って。
髙井部会長	○働く人が多ければ、十和田市の税収にも跳ね返ってくる。
升澤委員	○優秀な人材は地元に置いて、力を発揮してもらいたい。また、学生を育てる側、学校においても意識付けを行ってもらいたい。

【評価結果】

○事務事業の方向性

現状のまま継続　１人

有効性を改善して継続　４人

○各委員のコメント（外部評価表より）

・ミスマッチで離職した時の受け入れる対策を考えていただきたい。（職業能力開発させるとか）

・企業への求人要請は継続すべき。企業の良いところのＰＲを行い、早期求人に努める。学校教育現場は生徒への指導、市は十和田の良さのＰＲ、広報活動が必要。

・求人票を早く（6/20）出していただく。ミスマッチの部分はなぜやめたのか企業から聞き取り調査をし、今後に生かす。

・現状（提出企業数・時期）を調査して、求人票提出・試験実施の早期化をお願いする。

・管内希望者が 100%就職できる環境の整備と継続をこの事業に望む。

＊当日欠席者（升澤委員）の評価結果（11/11 総務課受領）

〇現状のまま継続

景気の動向に大きく左右されると思われるが、市・商工会議所・企業等の密接な連携を図りながら、現状のまま継続してもらいたい。

その他　　外部評価終了後の流れ（市長への報告書提出・評価結果の公表など）について事務局が説明した。